

古代よりの阿井地区について

先ず出雲国風土記時代（七三三）には、仁多郡は次の四つの郷に分かれていた。

○三沢郷…今の大原郡温泉地区・三沢・三成（斐伊川以南）・阿井・横田町の大馬木・大谷
○布勢郷…今の布勢地区

○三所郷…今の仁多町東北部・広瀬町比田地区

○横田郷…今の大谷地区外の横田地区

人口は一郷に五十戸（二戸は二十五人）であったから、四郷二百戸で五千人であったと推定される。（阿井地区は十五戸位で、約四百人）

このように阿井地区は三沢郷に含まれていたためであるが、地区名は阿井でなく阿位であり、馬木地区はまぎらわしいが、阿伊地区であった。そしてそれぞれの地区（里）の中央を流れる川名も阿位は阿位川、阿伊（馬木）は阿伊川であった。（ワニは阿伊川を登った）次いで和名抄（九三一〜九三七）によれば、三沢郷は次のように三郷に分かれている。



○三沢郷一阿位郷（今の阿井と馬木）漆仁郷（今の温泉地区）三沢郷（右二郷の他）

更に鎌倉時代（一一八六〜一三三三）に阿井郷が人口増のためか、阿井地区と馬木地区に分かれている。（この時阿位地区が井を使って阿井地区となっている）馬木地区の地名は、この頃有名な榎木の巨木が二本存在していたので榎木とした。（巨木神仰か？）又真木・馬来とも…。（馬木村史による）

ここで不思議な事に、地区名は以上の様な変遷を経たが、それぞれの地区の中央を流れる川の名は、馬木は雲陽誌（一七〇五〜一七一七）にはすでに馬木川と変わっているが、阿井地区の川、阿位川は雲陽誌にも明治八年の皇国地誌にも阿位川と記され大正六年の仁多郡誌には阿井川となっている。余程阿位に魅力があったのであろう。永長元年（一〇九六）今より九百年前、佐野源五延宜によって京都石清水八幡宮より勧請（当時奥湯谷尻）された阿位八幡宮の存在があり、精進川としての心もあったのであろうか？

□明治二十二年四月一日、上阿井町・上阿井村・下阿井村が合併し阿井村となる。昭和三十年四月十五日仁多町誕生。